三陸ジオパーク「ジオタウン@釜石」イベント開催

年明け間もない1月7・8日に、釜石市にある「イオンタウン釜石」において、「さんりくジオタウン @釜石」を開催しました。三陸ジオパークのエリア内16市町村から出題されたジオクイズをイオンタ ウン館内ほぼ全域に配置し、クイズラリーを中心としたジオパークの関連コーナーを設置しました。

ジオガイドによるジオパークミニ体験ツアーや、「鉄のおはなし」の紙芝居上演、三陸オリジナルの 岩石標本展示コーナーで開催した解説会では、学術アドバイザーの先生が子供たちも分かりやすくお話 いただき、それぞれが大好評でした。

事前申し込みがあるわけでもなく、来館者にいかに参加してもらうか?という状況でしたが、各日の クイズラリー参加者は100名ほどとなり、三陸ジオパークを楽しんでもらう機会になりました。 初企画の初開催でしたが無事に終了して良かったです。次はどうぞ現地でのジオ体験で会いましょう!

ご当地キャラクター 夢の競演



広域連携ならではの一コマです。実はキャラクターの誕生秘話にはジオの話が!?

ジオパークかわらばん作品展



今年度の応募作品280点余りをメイン 通路に一同に展示しました

アンモナイトレプリカ作り体験



ジオパークのイベントではいつも大人気の アンモナイトレプリカ作りコーナー

認定ジオガイドの紙芝居



お孫さんに見せたくて始めたという手作りの 紙芝居「釜石の鉄」のお話しは、釜石のガイ ドさんのオリジナルで、どこでも好評です

クイズラリー抽選会場



ミッションをクリアするとポイントゲットで合計 点数による ガラポン抽選で賑わいました

東北の床地図



北海道地図(株)様のご協力による展示です

《糸魚川ジオパークを視察訪問》

1月24-25日

「ヒスイのまち 糸魚川」は世界ユネスコジオパークでもありますが、鉱物資源等の保全についての事例を学ぶため、この度視察に行ってまいりました。それは非常に厳しい寒波がやってきた時のことでした。

どんなに荒れた天気でもヒスイ海岸にはヒスイ探しをする人がいると聞いたのですが「誰一人いなかった」ほどの天候の中での訪問となり、ご対応いただきました糸魚川ジオパークの皆様方には大変お世話になりありがとうございました。

三陸には久慈琥珀と野田村のマリンローズ等がありますが、鉱物販売についての意見交換をはじめ、現地での様子を間近に見ることで理解が深まり、「保全と活用」の先進事例を学ぶ機会となりました。歴史的、文化的な側面も検討し調整をはかりながら、引き続き取組んで参ります。



フォッサマグナミュージアムを見学



糸魚川GPの皆さまと意見交換

《三鉄ジオトレイン 碁石海岸》参加者募集中!

毎回好評のジオトレインですが、今回は三陸 鉄道車内では震災学習列車を体験します。

南リアス線から見える三陸の海、山と谷が連続する地形を三陸鉄道がつなぐように走っています。

東日本大震災では、三陸鉄道も大変な被害を受けました。その時のことや復興に向けての活動を語り継ぐことによって、参加した人が暮らす地域でこれからの防災や減災に取り組み、何をしていけばいいのかを考えるきっかけになればと思います。

一方では、三陸の海の豊かさがあるからこそ、ずっとこの地で暮らしてきた歴史もあります。なぜ三陸沖は世界三大漁場の1つと言われるのでしょうか?

盛駅からは貸切バスに乗り換えて大船渡市立博物館では、5億年にわたる三陸の大地の歴史を聞きます。椿まつりの時期に訪れる椿館と早春の碁石海岸。ジオガイドの解説があると一味も二味も違います。

盛りだくさんなツアーとなりましたので、お乗り遅れのないようにどうぞお申込み下さい。 https://sanriku-geo.com/2023/02/14579/





「地質情報展2023いわて」は「岩手県政150 周年記念事業」として実施します。

皆さんが住んでいる大地がどうやってできた のか、知っていますか?

小学校入学前のお子様から大人まで、様々な体験学習コーナーでの実験・実演を通じて、楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。ぜひご来場ください。

日時:2023年3月10日(金)

~12日 (日)

時間:9:30~16:30 場所:岩手県立博物館

主催:国立研究開発法人 産業技術総合研究所

地質調査総合センター

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

東北センター

一般社団法人日本地質学会

岩手県立博物館

共催:三陸ジオパーク推進協議会

後援:日本ジオパークネットワーク、東北地 質調査業協会、岩手日報社、岩手県地学教育 研究会、NHK盛岡放送局、テレビ岩手、岩手 朝日テレビ、IBC岩手放送、めんこいテレビ

三陸ジオパーク・現地推進員が記者となってお伝えするコーナー

毎回いろいろな情報を掲載いたしますので、どうぞお楽しみに!

「龍泉洞のジオストーリーを作る」取組み(ワークショップ)に参加して

記者:菊池 啓(いわて復興応援隊/沿岸広域振興局配置)

今回は、岩泉町で開催された「龍泉洞のジオストーリーを作ろう!」という取組みに参加させていただい た様子をレポートいたします。

【主催】岩泉町三陸ジオパーク推進協議会

【講師】広田純一先生(三陸ジオパーク学術アドバイザー、NPO法人いわて地域づくり支援センター代表理事、岩手大学名誉教授)

【会場】岩泉町民会館、龍泉洞など

【参加者】岩泉観光ガイド協会ガイド、宮古市、大槌 町、釜石市のガイド団体やジオパーク関係者等

【日程】第1回:令和4年12月21日(水)、第2回:令和5年1月27日(金)、第3回:令和5年2月17日(金)

【1回目(概要)】

広田純一先生より「ブラタモリに学ぶ」と題してブラタモリはなぜ面白いかの解説や今回の取組みの全体像、3回目で完成を目指す成果物や発表についてなどご説明があり、メインテーマの選択と班分けを行いました。引き続いて龍泉洞に移動し、各班リーダー(岩泉観光ガイド協会ガイド)からテーマの謎解きをするために必要となるポイントの解説を中心に改めて龍泉洞の洞内をご案内いただきました。

【2回目(概要)】

メインテーマを謎解きするために必要となるガイドスポット (お題を謎解きするために訪れる場所)を選択し、解説内容の検討や回る順番を決めつつ、班のメンバーで龍泉洞に詳しい方とそうではない方の役割も確認いたしました。

【3回目(概要)】

各班からの発表は、全員が少しずつガイド役となる 形式で、2班ではブラタモリ風に、タモリさん役・ア ナウンサー役・ご案内役と配役を決めて発表していた のが、面白かったです。

広田純一先生からの講評としては、ブラタモリは何故という問いと謎解きの繰り返しで、今日発表のジオストーリーはまさにそんな感じでやっぱり面白かった

こと、地元の方と他地域の方、ガイドとそうではない方の組み合わせが上手く機能し、それぞれが今までとは異なる視点で龍泉洞に関する理解を深めることが出来て良かったことなどがありました。

最後に参加者ら全員で集合写真を撮影し、互いへの労いの言葉や参加して良かったという感想が飛び交う、とても良い雰囲気の中で今回の取組みは(1つの)幕を閉じました。

発表や講評の中でもあったのですが、わたしも同様の取組みが三陸ジオパーク全体に広がっていけばいいなと切に思いました。

開催、運営にご尽力いただいた岩泉町の箱石善也さん、岩泉観光ガイド協会の千葉佳奈絵さん、ありがとうございました!楽しかったですし、凄く勉強になりました。

【各班の発表(概要)】

- ◆1班:《テーマ》**龍泉洞の地底湖はなぜきれいなのか?**⇒《発表の概要》江川ドリーネに降った雨水が地下水となり、龍泉洞に流れ着くまでに石灰岩の中でろ過されること、各地底湖には常に水が入り込み浄化循環されていることなどを解説。
- ◆2班:**龍泉洞の水はどこから来るのか?**⇒黒森山や江川ドリーネから染み込んだ水が江川川や本田川の下の地下を通って来ることなどを解説。
- ◆3班:**龍泉洞はなぜここにできたのか?**⇒地球惑星システムによる岩泉町の大地の成り立ち、特徴的なカルスト地形、断層と水の流れ、石灰岩の浸食などを総合的に解説。
- ◆4班: **龍泉洞はどのようにして観光地となったのか?** ⇒龍泉洞のこれまでの歴史を紐解きながら、当時の若者たちの活動、保全・保護と観光面それぞれに優れた人格者がいた(先人たちが尽力した)こと、龍泉洞は全町民の宝であると町営化を推進したリーダーがいたことなどを解説。



1回目の配布資料



龍泉洞内 第一地底湖



2回目の様子



3回目:1班発表の様子



2 班発表の様子



3 班発表の様子



4 班発表の様子



集合写真

【ジオフード】岩泉小川炭鉱と炭鉱ホルモンの関係

記者:里舘 徹(いわて復興応援隊/宮古地域振興センター配置)

小川炭鉱とは?

炭鉱ホルモン実食

岩泉と言えば岩泉乳業が有名ですが、今回はジオフードとして「炭鉱ホルモン」を紹介します。 まずその歴史から紐解きます。

炭鉱とは小川炭鉱のことで、平成8年まで小川 地区で操業されていた炭鉱となります。

江戸時代の天保年間(1830~1844年)に鉄山師だった上酒屋儀助が「たたら製鉄」の燃料として石炭を採掘したのが始まりと言われています。昭和8(1933)年からは本格的な石炭の採掘がはじまり、また良質な耐火粘土の鉱脈も見つかり戦後には硬質粘土も発見され、粘土の採掘とこれを加工したシャモット(焼成粘土)の販売が中心となりました。

最盛期の昭和10年代後半には1,000人もの人が働いていました。採掘は平成8 (1996) 年まで続きました。本格的な採掘開始から60年以上にわたり経営され、岩泉町の産業振興に大きな貢献をしました。

当時の様子は歴史民俗資料館の展示室(1階) で様々な展示により詳しく解説されています。

(資料館は旧小川小学校に移転することになり、準備のため3月1日より当分閉館となります。)



岩泉町歴史民俗資料館



小川炭鉱展示室(1階)



地質資料展示室(2階)



考古資料展示室(3階)

昭和40年頃から炭鉱近くの「あずまや」という食堂で、ホルモン定食をメニューに加えるようになりました。これが美味しいと評判になり盛岡の人たちも岩泉方面に用があるとき「あずまや」に寄って食べるほどでした。

具材には地元の大豆から製造した豆腐が必ず入っています。ジオの地産地消であると言えます。

炭鉱の労働者の中に朝鮮半島から来た人もいて彼らは内臓系を食べる習慣があったため、そこから「炭鉱ホルモン」が出来たのではないかと言われています。

平成の初め頃「あずまや」は店を閉じてしまいましたが、地元のお店がそれぞれのホルモンを開発し、販売するようになっています。

個人的にお薦めなのは、歴史民俗資料館近くの「1001広場」のホルモン鍋定食です。

鍋に火を入れグツグツと煮て食べますが、 待っている間に食欲をそそる匂いが立ち込めて きます。癖になる味で何度でも足を運びたくな るホルモン定食です。

(※記載の一部は岩泉町歴史民俗資料館の展示より引用)



1001広場の炭鉱ホルモン鍋定食(税込800円)

店舗内にはスイーツコーナーもありますので、辛いホルモンを食べたあとは甘いもので決まりですね。

編集後記:釜石市で開催されていた発掘調査展・報告会に参加し、いそいそと展示会場に移動していた時に取材を受けました。釜石新聞さんは、今までにも市内でのジオパークの活動についていろいろと記事に書いて下さっているので、(チャンス!)と思いつつ一般的な受け答えをしていましたが、結局話しているうちに説明しないと分からないだろうなとアレコレと手短にジオの話になりました。復興工事に伴い発掘された貝塚からその地域の歴史文化が紐解かれます。この場所も立派な(!?)ジオパークの見どころの一つ。釜石新聞NewSの掲載記事はこちらです。~と~https://en-trance.jp/news/kamaishishinbun-news/34365.html

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072 岩手県宮古市五月町1-20 (宮古地区合同庁舎2階)

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234 info@sanriku-geo.com https://sanriku-geo.com/

